

戦後70年の時にあたり、わたしたちの課題を考える

〔市民活動フェア 2015〕 参加企画) **神奈川証言集会**

〈日時〉 3月7日(土) 13時開会 (11時よりビデオを上映します)

〈場所〉 かながわ県民センター3階会議室 (横浜駅から徒歩5分・裏面地図)

〈講演〉日本の侵略主義の歴史をたどり、 撫順戦犯管理所の経験の意義を考える

講演者：藤田秀雄さん (立正大学名誉教授・83才)

NHKで『坂の上の雲』が上映される時、「史実の偽造」ではないかという指摘や、司馬遼太郎の歴史観までめぐって議論が展開され、「史実の偽造を拡散させるNHK」への抗議をふくめた講演会、学習会が数多く開催されてきたことはご存知のとおりです。ところがいま、『吉田松陰』をめぐってそのような議論はほとんど聞かれませんが、本集会の講演者＝藤田先生は「吉田松陰は侵略主義者だ！」とはっきりと指摘されています。



以下、講演を準備するにあたって藤田先生が最初に書かれたメモをご覧ください。講演の趣旨についても書かれています。

日本近代の侵略主義は、いまNHKテレビで放映されている吉田松陰らからはじまる。それは幕末のウエスタンショックを侵略に転じて、不安を回避しようとするものではなかったか。その後の日本は、成長・発展のために、朝鮮、中国等を蔑視し(福沢諭吉の「脱亜入欧」)、ひたすら侵略をすすめる。

撫順と太原の戦犯管理所における日本軍戦犯への指導は、日中間の「平和のとりで」をつくろうとする、歴史上かつてなかった平和教育活動であったと思う。

現在の日本の極右政策は、成長、発展のために、ふたたび軍事力強化→戦争体制構築へすすんでいる。私たちはしっかりと見極めなくてはならない。

戦後70年の時にあたり、わたしたちの課題を考える

- 1、 近現代史を学びなおす。朝鮮、中国侵略を中心に。第1次世界大戦後の平和思想にも学びながら。
- 2、 日本の将来像を構想する。経済の成長、発展を重視することの危険性。

資料代 500円 (学生は無料)

“最後の証言者”、絵嶋毅さんが1月3日に急逝されました。101才でした。

(細部は裏面をご覧ください。)

〈主催〉 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部 (連絡先 松山 TEL 046-871-4263)

絵嶋毅さん逝く

2015年の新年が明けたばかりの1月3日、いつもの時間に起きて朝食後もいつものように絵嶋さんは午前中パソコンに向かっておられたのだと思います。昼食時間になって自室から出て食堂に顔を出されたとき、「背中が痛いのでシップを貼ってください」と訴えられて、居住施設のスタッフが顧問の医師と連絡をとり、医師のアドバイスで念の為にということで救急車を手配したそうです。救急車が到着したときも絵嶋さん本人は「自分で歩けますから」と立ち上がり歩きたくくらいお元気だったそうです。

ですが病院到着後に病状が急変して、残念ながら21時すぎに帰らぬ人となってしまいました。病名は心筋梗塞でした。

一昨年(2013年)には100才を迎えられて、茅ヶ崎市文化会館で私たちが計画した「絵嶋さんの百寿を祝う会」で、「百寿の人生放談～百寿の秘密を探る～」と題して90分間よどみなく、はじめの半分はみなさんから聞かれるのでということで“長寿の秘訣に”ついてでした。それはなんとといっても帰国後「侵略戦争に反対し、平和を守る運動」を貫き通すことを通じて社会に関わりをもってきたことに尽きる、と力強く述べられました。そして後半は、これまでの絵嶋さんご自身の実践の過程と現安倍政権の戦争政策への厳しい批判の言が述べ、多くの参加者の感動を呼びました。



そしてその年(2013年)もその後、中国からのTVインタビューや何組かのグループに応えられ、また小学校の教師グループからも呼ばれてお話をされました。そして昨年(2014年)も、戦後70年をむかえるにあたってまたもや中国からインタビューに訪れたスタッフに、また国内の新聞記者、市民団体グループへのインタビューと、大変忙しく絵嶋さんにとっての社会への関わり活動を続けてくださいました。

12月13日に行われたインタビューが最後となってしまいました。そのときも「年が明けたら、表題はお任せしますからまたおおぜいの皆さんに102年間の人生の“思いのたけ”を語ってください、とお願いしたところでした。

絵嶋さんは「そうですね、考えていることがあるんだ。そのことをまとめてみよう」と仰っておられました。おそらく正月の間に準備を進められていたのではないかと思います。

いつものようにハリのある大きな声で、休憩を挟んだが3時間以上のインタビューにもかかわらず疲れも見せない絵嶋さんのお元気な様子から、その願いが実現できないなんて、私たちは120パーセント疑っていませんでした。もっともっとお話が聞けると思っていました。市民活動フェアが終わったら、次は大きな会場を探さなければ、と相談していたところでした。本当に残念です。

絵嶋さんの残した膨大な手記の中から作成した冊子「撫順戦犯管理所の6年」「シベリアの5年」「皇軍兵士の4年」に示されているとおり、絵嶋さんの人生のど真ん中の15年間の体験とそれに基づく教訓はまさに無限の深さがあります。どんなに汲んでも汲みきれません。

これからも、ささやかなりとも絵嶋さんの体験にもとづく教訓を受けとめ、受け継ぐ会神奈川支部の活動を通して後世に伝えていきたいと考えています。

一定の時期に“絵嶋さんをしのぶ会”を開催したいと考えています。

撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部 (連絡先 松山 TEL 046-871-4263)

神奈川証言集会の会場地図です →

